

GREEN RANGER NEWS

2014年4月号

Vol.253



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局
〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字滝下102
Tel & Fax 0224-25-3820
URL <http://www.zao.org/>
e-mail mail@zao.org

■ 3月の活動報告

[森の教室]3月23日

作業小屋周辺は、例年では考えられない程雪が残っていました。駐車スペースを確保するため雪かきをして、やっとの思いで小屋に入れました。この雪を利用しないのはもったいない、ということで、この日はスノーシューをはいて植樹地を散策しました。思いがけずスノーシューハイキングを楽しめました。この日の参加者は6人でした。

■ 4月の活動報告

[日帰り研修旅行]4月6日

自然観察路の道標と看板設置にむけて、県民の森と台原森林公園に日帰り研修旅行に行ってきました。県民の森ではカタクリやショウジョウバカマが見頃を迎えていました。ボランティアが作った道を歩き、険しい地形ながら快適に自然観察ができました。午後は台原森林公園に移動し、主に看板を視察しました。春休み最後の日曜日とあって、大勢の親子連れでにぎわっていました。この日の参加者は、午前中11名、午後6名でした。

[定例会]4月13日

午前中は、植林地3ヶ所にミズナラなどを補植しました。去年作った巣箱も設置しました。とこどころ残雪があり、小屋の後ろでは雪解け水が心地よい音をたてて流れていました。午後は自然観察路の看板等で議論が盛り上がり、観察路を実際に歩いて見ることに。目的をもって廻ると見えてなかったものも見えて来た様な、今後のお楽しみです。(参加者:12名)

[森の教室]4月27日

快晴、午前中は補植。植える場所を掘るとミズミズの多いのにビックリ、イノシシやモグラの喜ぶ姿が目に見え、木には優しくね。午後は植物調査。まずは咲き始めた大山桜へご挨拶、紅山桜とも、花は大きめ、綺麗、今年初咲きの若木も、結構な本数在りました。突然何か走った、「リス!」、シャッターを切る、あの根っ子の陰へ、そっと廻って行く、居ない、カメラにもいない。山笑う頃、動物たちも活発に、次の楽しみが増えました。参加者:2名。(by みーすけ)



4. 6県民の森(ミサワオーナーの森宮城)にて



4. 13残雪の植林地に補植

■ 5月の活動案内

[定例会]

開催日 5月11日(日)

集 合 場所のわからない方、JR利用の方 9:30白石市役所駐車場
自力で来られる方 10:00 苗畑(深谷)

内 容 苗畑整理 植物調査 道標の仮設置

[森の教室]

開催日 5月25日(日)

集 合 作業小屋(丸太小屋) 10:00

内 容 自然観察路作り

針広混交林実験地について

仲村 得喜秀

植林地の中には針広混交林の実験地があります。

- 目的 1. 有用広葉樹と直伸性のある針葉樹が共に育つ事によって、直伸する有用広葉樹の用材を育てる。
2. 多様な森林環境を作り出す事によって、山地の保全、保水、豊かな生態系の維持等に寄与できる。

○植林前環境-牧草地 ○推定面積800㎡ ○標高-650m

○植林年月- 2005年スギ植林、広葉樹はその後2~5年かけて植林。

○植林針葉樹、スギ200本約2m 間隔で植林。

○カラマツは自然成立していた林を利用(広葉樹を植える場所は、カラマツを伐って確保した。)

○広葉樹種については苗木が入手できず、スギ植林の2年後から植林する。

○植林したものカツラ、オオバボダイジュ、ミズナラ、ケヤキ、トチノキ、ハルニレ、ブナ、各種1~8本を植林。

○自然に生えてきている広葉樹、ウダイカンバ、ミズキ、クリ、クマノミズキ、コナラ、ミズナラ等。

○現在までの経緯。

この実験は本来ならば、標高500m までの里山でやりたかった。標高650m というのはスギの植林敵地とは言えないからである。そこでスギの苗木は、雪や寒さに強いとされている、さし木苗を用いた。植林本数は、スギ200本に対して有用広葉樹種は40本ぐらいである。スギは案の定、当初5年ぐらいはあまり伸びず、枯死するものや寒風害の被害を多く受けた。広葉樹についても全く同じであった。しかし、その後は両者共に、一気に伸びを早めてきている。広葉樹については、当初の予定を裏切り、必ずしもスギと一緒に直伸してはいない。カツラ、トチノキ、オオバボダイジュ、ウダイカンバはなんとか直伸しているが、他の樹種については、今の所全くわからない。今後とも経緯を見守っていくしかない状況である。今は全く記録を取っていないが、これからでも良いから記録をとっていく事は必要なのかも知れない。施業方法については有用広葉樹を優先させる事から、スギが障害になってきた時はスギを切る事になる。ケヤキなどが本当に価値を高めるのは、200~300年後という事になると思われるので、この森を見守るのは後世の人という事になる。